

京城日報

刊夕日一
發行所 東京市山手区
電話 三三三三
印刷所 東京市山手区

漢口に叛亂起る

漢口に叛亂起る。漢陽武昌に對し總攻撃を行つた。漢陽武昌に對し總攻撃を行つた。

段氏の副總統被選拒絶

段氏の副總統被選拒絶。段氏の副總統被選拒絶。

注目すべき一兩日

注目すべき一兩日。注目すべき一兩日。

寺内總督動靜

寺内總督動靜。寺内總督動靜。

支那公使招待

支那公使招待。支那公使招待。

滿蒙新領事

滿蒙新領事。滿蒙新領事。

吉長鐵道借款

吉長鐵道借款。吉長鐵道借款。

煙草界の現狀

煙草界の現狀。煙草界の現狀。

仁川果樹栽培

仁川果樹栽培。仁川果樹栽培。

酒稅施行協議

酒稅施行協議。酒稅施行協議。

重石輸出當局

重石輸出當局。重石輸出當局。

辭令傳達式

辭令傳達式。辭令傳達式。

軍司令官歸期

軍司令官歸期。軍司令官歸期。

各検査班出發

各検査班出發。各検査班出發。

露貨下落

露貨下落。露貨下落。

輸出米組合成立

輸出米組合成立。輸出米組合成立。

李周公邸晩會

李周公邸晩會。李周公邸晩會。

北鮮部隊巡視

北鮮部隊巡視。北鮮部隊巡視。

京漢線連絡驛

京漢線連絡驛。京漢線連絡驛。

水利組合通水式

水利組合通水式。水利組合通水式。

金泉

金泉。金泉。

永川

永川。永川。

州清

州清。州清。

永興

永興。永興。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

天津

天津。天津。

京
城
日
報

支那政局

支那の政局方針を極むること久し
頃、協調を告ぐるが如くなれど、

今日の現狀に就て之を云はゞ、察、支那政府の必要とする、金額も亦大に攻奪せざるべからず、是れまでは五百萬圓、七百萬圓の端下金を得れば、朝鮮、大連の態ありたれど、日露の糾紛に過さずして、財政の基礎を定め、政治機關の折衝を立つる爲めには、巨額の外債を起さるべからずして、支那自身の租税、其他の歳入を増加して、自ら支ふるまでの間、其給を借款に求むることは、少くとも二三億圓の外債を起すを避くべからずして、支那自身の信用と關係列國民の、資金供給力と相合せざれば、其事を全くすべからざるなり。

米國政戰

すべきは其財政なり、其歳入は甚
繁くして、其経費は則ち甚だ多
北京政府當局者は、遺縁葬段に
て日を遡り、只た借金、略にのみ
目を居るといふ有様ならず、明
長陳錦濤氏は、米國に知友、多用
國庫財政家に相談するに多くの便
有するの人なりと稱するも、支那
今日の有様に於ては、米國とても容
に借款に應ず可くもあらず。支那
當局者は、國會を開き、政局確定
するべく、先づ米國を訪問し、米
國の政治情勢を調査せんとすべし

ハズグエルト氏の失脚
巴比倫の崩壊
大總統
のツキルビ
ヒュース氏と既知
數のツキルビ
ハズグエルト氏の失脚
巴比倫の崩壊
大總統
のツキルビ
ヒュース氏と既知

今秋を以て執行せらるべき米國大統領
選挙に對する各黨の政争は次第に
高潮を呈し來りつゝあるものゝ如し
而して此の一代の偉人ハズグエル
ト氏が失脚して明日の如き優勢を
見ざるは時に利非ざりとするも黨
人の資格處分實に遺憾すべきもの多し
ハズ氏の失脚は實に滿清黨の滅亡を示
すものにして即ち司馬公孫權の望由



南望——瀨陽公園にて——
石田富造 筆

ない現象が展開されて居るのである」と言かれしは實に高山盛衰の妙趣を寓されしものと存候。山頂は雲霧常に多く湖水の晴照は容易に見難しとは数事洞や惠山鎮の土民も申し居候も天公余を憐みて朗晴を以てし千里一望に遊歩勝處の快を成しけるを得しは望に幸福に候。大正峰より葦岸の高草まで直徑約五千米突はあるべく故に其山輪を一周すれば五里はあらむと想はれ候只松花江口の缺げたるのみにて他は百米突乃至二百米突の斷崖をなして湖水を廻れり湖水の周圍四里に近からむか水色紺碧實に老龍の棲む所なりと古來稱するも蘆葦とは想はれず候。御座の色は或は丹、或は緑、或は紫に綠、紫碧燦然たり到底木葉のみに非ず洋葩家の妙腕にあらずむ其色彩は露出し得られずと存候山頂を跋涉するところ約四時間時季は盛夏殊に土

突刺大
貫大解

暴帝不口
小唄供養

「日本一」
小野秀雄
東京一京

日韓善房
新報廣告

近代西洋 文藝叢書	冰島の漁夫	埃及行	定價四十錢
鐵道旅行案内	定價十錢	鐵道旅行話の庫	定價十五錢
少年通俗 教育會館	定價七十錢	一日一訓	定價五十錢
忠實著 上田著	定價十五錢	我娘の初戀物語	定價十五錢

宗城町二丁目
電話五〇一

日鮮魚及消

世間學は世間ありのまゝの學問にして二本の著の上げ

世間の選り人間を辭職する迄何時もなくてな
 世間の退き人間を閑居の學問也、著者世
 間に於いて酸いも甘いも即存の浪六先生猫の
 目を通して人の語れる表面に聞かぬ處に目を光
 りて美するよりも寧ろ大に闇い處に目を光
 と先生が最近に執筆せられたる快著である

婦

庭家快愉

妻たる人へ 井上哲次郎

良人の職業に對し此く理解せよ

子供惡癖を直す法

佐々木氏守屋女史佐多女史實話

臺所の科學研究

小此木武子

■家庭龍卷(急々)

小説(快談) 渡邊淳一

村井氏が古來傳説の當否を實驗せんが爲卅八日間の久年平五銀一號寫紙十冊一月入

東大阪大電氣
阪市三軒屋
七二二番地
電話四六八〇

其の基礎たる改組を失ひ、遂に進歩黨の一
 面に於ては共和黨も同盟も固守した
 るが如き保守主義の手に握られ、遂に
 ざるを自覺するや餘りに進歩主義に
 近づき來りたれば進歩黨は兩方より
 其の傾分を食ふせらるゝに至りたり
 之れ實に進歩黨亡の真因とも云ふ
 を得べし而して先達のシカゴに於る
 大統領豫選會の間際とな
 りル氏は百方策を講じて進歩共和兩
 黨の調和を謀り自ら適合候補者とな
 ると努めたり這は兩黨握手するに非
 り主黨の勝利は共和黨の勝利に全
 くの處まで附随するに極めて困難な
 り若し進歩黨が共和黨を握手して
 民主黨に當るの決心あらば勿論ヒ
 ヌス氏の勝利ならん進歩黨が
 共和黨と歩調を一にするに露出せ
 べき事に非ざれば其の一部は民主
 黨に赴くものもあるべく一部は共和
 黨に投ずるものもあるべく而して又た
 一部は依然獨立の行動を採るものも
 あるべきが故に之を以て全然ヒユ
 ス氏のものなりと云ふは尙ほ早計な
 りと云はざるべからざる也而してウ

南 望 一 講義公論にて一

石田富造

七月十九日乃^{すなは}ち十^{じふ}里^り一日^{いちにち}自^{より}栗^{くり}山の
最高^{たか}頂^{たけ}なる大^{おほ}家^け室^{むろ}に坐^ます候^う、御^ご深^{ふか}二
千^{ふた}七^{しち}百^{ひゃく}四^し十^{しう}三^{さん}米^{まい}突^つ、北^{きた}緯^ゐ四^よ十^{しう}一^{いつ}度^ど五
十九^{ふた}九^{じゅう}分^{ぶん}二^に十八^{はち}秒^{びやう}の位^ゐ置^ちに當^{あた}り候^う、絶^た
取^とりより約^{およ}六^む百^{ひゃく}米^{まい}突^つ、北^{きた}緯^ゐ四^よ十^{しう}一^{いつ}度^ど
より永^{とこ}くあ、しかも其^{その}間^まに岩^{いわ}露^ろ、
石^{いし}楠^{なん}花^{はな}百^{ひゃく}竹^{ちく}、白^{しろ}合^が葛^{くわ}連^{れん}桔^き梗^{けい}など其^{その}
他^{ほか}名^なも知^しらぬ奇^き花^{はな}葉^え分^{ぶん}を放^{はな}す候^う、山
裾^{すそ}通^{とお}なる数^{かず}數^{すう}馬^ば氏^しが叫^{こゑ}ひの聲^{こゑ}野^の草^{くさ}繁^{さか}茂^も
に高^{たか}山^{さん}植^ち物^{ぶつ}を陳^{ちん}設^{せつ}さ^るれてある文^{ぶん}中^{ちゆう}
に「右^{みぎ}足^{あし}は未^{いま}だ雪^{ゆき}人^{ひと}踏^ふんで居^ゐるの」
に左^{ひだり}足^{あし}には花^{はな}朝^{あさ}履^{ぞうり}と叫^{こゑ}ひつて居^ゐる」と云
ふ有^あ様^{やう}で一寸^{いちずん}進^{すす}めは冬^{ふゆ}一寸^{いちずん}下^{くだ}れば
春^{はる}であつて平^{へい}地^ちに於^おては到^{いた}底^{てい}見^みられ

辯護士何ぞ者

日本

鄰邦の史劇 福本日南

- 軍國主義の盛明 高橋主幹
- 對文藝發展 中橋健五郎
- 米食の革命期來る 小野文雄士
- 好政手 獨逸 松波博士
- 文部問題の解剖 稻葉君山

米國論 浮田博士

意外錄 和田垣博士

- 民上運動論 上杉博士
- 戰後すべき銀行群像 奥村卯兵衛

獨再保險業 學六大家執筆

立朝顏日記 深雪の家出 一掃軒伯俊

中川大祐 貨幣狼狽 松林伯國格

蒲門助六 土手待伏 磯城齊典山

行發社北南東京戰五十八共計這大滿分年午一五五號一第

浪六先生新著
 新刊三百餘頁 價九十五錢
 著者裝幀及 自筆口繪挿入 送料金八錢



報新

二日朝刊

(タ刊とせ合て八頁)

本紙
定價
三圓七角五分
三個月九圓
六個月一十六圓
一年三十圓

廣告
▲五號字一行金七拾錢
▲報端指定行金拾錢
▲本報指定行金拾錢
▲本報指定行金拾錢
▲本報指定行金拾錢

發行所
東京
小田
三
分

電話
東京
三
分

代印
東京
三
分

發行所
東京
三
分

太平通一丁目

發行所會東京城日報社

も匪特異政策、非常處分、關稅問題等に對しては非難の聲あるが故に同氏等に未だ樂觀は許さざるを要するにウキハワシ氏とヒュース氏の政爭は衆知歟と既知歟との爭なるが故に其間一層多大の趣味を有し居れり

[illegible]

支那の妥協統一國民性論

○武裝的產業論……永井柳太郎

○日露の經濟的協戮……大倉喜八郎

○日露新協の經濟的効果……鈴木茂於

○海草上生する巨萬の富……遠藤

○銅價の高低と其の需用の將來……小畑國三

○英國式及獨逸式戰時財政若機前奏曲

○日所協約の變更……大隈

は、萬一の望を察さざるものゝ如し併ながら支那借款問題には獨り其の政局のみを見て之を解決す能はざるなり從來の支那政府に借款を企る場合には日本佛露獨米六國聯盟なるものとて其相敵に應じたれども北米英國は他の列國より排斥せられて復退して獨り自由行動を取り獨り其勢に與かる能はず乃至今日の地圖は日英佛露の四國なれば是れ今方に獨逸土諸國と交戦立つを以て多少支那の財政に干渉するの餘力を有すれども他の諸国は自己の戰時財政に是れ急にして支那の爲めに其力を割く能はず

を失ひたるに在り五年前ル氏が保守的共和黨に反對して進歩主義の旗幟を樹てたる時は人心共和黨に倦める秋さて天下は油然としてル氏の傘下に集まるの概ありしも而かも共和黨は之に因つて分裂を見其の際に乗じて民主黨は巧に漁夫の利を占めウッパソン氏の大統領落選を見るに至り

△爾來民主黨は人心收攬に努めル氏が唱道したる進歩的立法の幾分は民主黨の採擇する處となり漸くに人心又々進歩黨より去らんとせし際俄然歐洲大戰の勃發となり潜航艇問題より米露の交渉となるやル氏は機に乗ずべしとなし大に軍艦擴張權擁護を絶叫し以て進歩黨的氣勢を挽回せん企てたり然るに大統領ウッパソン氏は既に軍艦擴張を主張せるモノナリ

くんば到底ウキルン氏を敗るの見
 込なきを自覺したるが爲なりしもル
 氏の此の苦心も水泡に歸し共和黨は
 斷然ル氏の候補者たるを拒絶するの
 氣勢を示したればル氏は更に一策を
 案じて親友ロツチ氏を候補者に推薦
 せざるも之れ亦共和黨の拒絶する處と
 なる愈々選舉となるや共和黨はヒュ
 ース氏を選舉せりル氏亦進歩黨より
 選舉せられしと雖も進歩、共和の連
 合するに非ずんば民主黨の敵に非ざ
 るを熟知せるル氏は折角選舉に當選
 しなからば候補者たるを辭退したる
 斯くて首領に見棄てられたる進歩黨
 は策の施すべきなり有耶無耶の間に
 險惡會を散ぜざる之れ實に

△進歩黨瓦解の近因とも見
 然るにヒュース氏に對しては彼の
 獨逸系米人の勢力なり彼等
 等はルースヴエルト氏を憎みウキ
 ルン氏に對しては不平滿ちたりル氏
 にして若し大統領の候補者たらば如
 何にもして氏の當選を妨害せんと目
 論見居たるものゝ如しウキルン氏
 に對しては彼のルシニア號以來幾
 度か船難問題に抗議したるありて
 獨逸系米人よりは甚しく反感を買ひ
 居れ獨りヒュース氏に至りては其
 の對獨逸は未知數に屬し居れるが故
 に此の點に於ては同氏に強味あるは
 歴然たり而し乍らウキルン氏に對
 しては軍備問題對獨逸問題等重要なる
 論争點たるべきも大體に於て米國民

キルン、ヒュース兩氏の勝敗に最も
 大なる關係を有するものは
 △獨逸系米人の勢力なり彼

用の前日なるも身置體氣を感じ衣袂
濕氣を生じ候。尙ほ山上の所感に就
ては記述すべき折も可有之候、鬼に
角朝雄第一の名山一度は春隣の價値
有之候小生は茂山より往復したれど
も行程甚だ難きにあらす農事洞より
二十三里は無人の境たり先づ往復三
度つく露宿するものとせば宜しく候
千石斧斤を容れざる森林中に夜深飢
狼の聲を聞きつゝ限らずも亦一興に
候早々不乙。(七月二十六日)

日 報 歌 壇

英 次

いそ小さき決心の一つわけもなく
こばたれてあり彼女の前に。
倦怠のどん底にゐて享樂のはかな
き夢を今日も追ひ行く。
あゝ女よ三年振りの君と僕と昔の

八月號九號 京城朝日新聞 明治三十四年八月九日 星期五 第XXXX號
 夏雜題 旭邦 解制學上 女質的特徵 久保 博士
 日露協約と滿鮮貿易 水越鮮理士
 滿鮮經營の本義 三線運賃問題 石本代議士
 印度洋から大西洋へ 坂出技師 滿洲の諸問題 高橋學士
 滿鮮統一論 野田閣議 中村都督と語る 青風先生
 支那横斷記 木村鮮理事 石楠花の密林 岩佐廉人
 編輯室より 釋尾旭邦 女雜觀 旭邦生
 勸省のない朝鮮鐵道 技師 朝鮮政變史 國分事務官
 朝鮮需要の將來 森 技師 搶奪日記 可水生
 外紙の朝鮮教育と同化論 崑崙山人 朝鮮及滿洲問答
 吾輩の養生法 國分長官 吉原鐵士
 南洋の歐米殖民地坪谷等四郎 古海鐵士 仙仙俗趣 荻風生
 我輩の婦人觀 石原鐵士 渡邊院長 原田對船社長
 鴨江百廿里 白水參謀長 泰山案内記 田原天南
 女に囚はれたる某醫者の家庭 天涯生
 旭町三人斬と情欲倒錯狂 工藤辨鐵士
 元山附錄 〇遊樂地として見たる元山 天 一記者

人世界

き嚴格に自ら斷食を實行し
村井弦齋實驗

斷食の効能

精神肉體共に一新の實驗を得たるを以て茲に一大確信の筆を揮ひ本號より連載す

暑中
 小説雪の中梅..... 下田歌子

讀の
 夏を涼し暮す家事の隨筆..... 加藤崎子入澤常三ハリス氏

物
 茄子の下痢當..... 加藤崎子

善房
 告白
 忠厚著
 慈行著
 一
 訓
 定價七
 十錢
 獻心著
 痛しき
 初戀
 物語
 美談
 定價五
 十五錢
 目下
 五

婦
 愉快な家庭
 妻たる人へ
 良人の職業に對し此く理解せよ
 子供惡癖を直
 佐々木氏、守屋女史、佐多女史
 家庭科學的研究
 小此木武子
 龍卷(快讀)
 實験せんが爲卅八日間の久
 年半圓五錢一銭五厘七十
 一號月八

大解
割大
突貫
日韓
新報版
 近代西洋
 文藝叢書
 鐵道
 少年通俗
 教育編
 百讀
 幼年
 お話の庫
 定價五十錢
 送料八錢
 近世西洋
 文藝叢書
 鐵道
 少年通俗
 教育編
 百讀
 幼年
 お話の庫
 定價五十錢
 送料八錢
 小唄供養
 小杉天外
 暴帝ネロ
 小野秀雄
 「日本」主筆
 東京
 一九四九年

世間學は世間ありのまゝの學問にして二本の箸の上げ
おろしから人間を辭職する迄瞬時ともなうてな
世間を退き人間を甘い世間の明るく處で猫浪の世
間學のオリーソ酸も甘い世間の明るく處で猫浪の世
目を含めて人の語れる表面に闇い處に目を光
目讚美するよりも筆を擧る表面に闇い處に目を光
先生が最近に執筆せられたる夾著である

徳本日本日報東京大
號部阪大電
三七五二二號
號屋阪大電
四八六二號
香

辯護士何ぞ者

日本

立獨再保險業

●朝顔日記 深雪の家出 一掃軒折伯度
●中山大樹 貨幣銀根 一松林伯岡格
●清岡助六 土手待伏 一磯城齊典山

米國論

●文部問題の解剖 一福美君山
●浮田博士

鄰邦の史劇

●好敵手 獨逸 一松波博士
●文部問題の解剖 一福美君山

意外錄

●日本新聞員 一和田垣博士

●民上運動論 一上杉博士

●戰勝すべき銀行詐欺 一奥村卯兵衛

朝日新聞社

日本新聞
 露新協約大使命 侯爵
 日本の維新と支那の革命 山路要山
 ○タゴールの講演を評す 金子馬治
 今日の世界 現代思潮と最新文明とを爲
 ○歴代支那公使 与川嘉平の五人の顯談 中村光
 小垣根の蔭 小川新五郎 石川
 ○飛騨の四谷 山口貞吉 婦人の力と獨逸 員外郎
 飛行機上の涼味 井上中尉
 八月號附二號 東京富山房(五〇二)
 浪六先生新著 菊判三冊餘頁 價九十五錢
 著者裝幀及 自筆口繪挿入 送料金八錢

第二 記者志望者の大福音
 本誌大正十一年四月一日開講以來、高田文相、尾崎首相、
 新新聞義演會、
 講開 勿逸此入會の絶好機
 日本一新聞
 大丈夫論 中野武蔵
 日本一新聞
 日本一新聞

支那の妥協統一國民性論

○武裝的產業論……永井柳太郎

○日露の經濟的協戮……大倉男爵

○日露新協の經濟的効果……鈴木茂於

○海草上生する巨萬の富……遠藤

○銅價の高低と其の需用の將來……小畑國三

○英國式及獨逸式戰時財政者機關並相

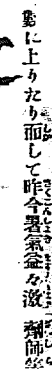
○日所協約の變更……大隈

五萬石、七萬石、八萬石、九萬石、十萬石、十一萬石、十二萬石、十三萬石、十四萬石、十五萬石、十六萬石、十七萬石、十八萬石、十九萬石、二十萬石、二十一萬石、二十二萬石、二十三萬石、二十四萬石、二十五萬石、二十六萬石、二十七萬石、二十八萬石、二十九萬石、三十萬石、三十一萬石、三十二萬石、三十三萬石、三十四萬石、三十五萬石、三十六萬石、三十七萬石、三十八萬石、三十九萬石、四十萬石、四十一萬石、四十二萬石、四十三萬石、四十四萬石、四十五萬石、四十六萬石、四十七萬石、四十八萬石、四十九萬石、五十萬石、五十一萬石、五十二萬石、五十三萬石、五十四萬石、五十五萬石、五十六萬石、五十七萬石、五十八萬石、五十九萬石、六十萬石、六十一萬石、六十二萬石、六十三萬石、六十四萬石、六十五萬石、六十六萬石、六十七萬石、六十八萬石、六十九萬石、七十萬石、七十一萬石、七十二萬石、七十三萬石、七十四萬石、七十五萬石、七十六萬石、七十七萬石、七十八萬石、七十九萬石、八十萬石、八十一萬石、八十二萬石、八十三萬石、八十四萬石、八十五萬石、八十六萬石、八十七萬石、八十八萬石、八十九萬石、九十萬石、九十一萬石、九十二萬石、九十三萬石、九十四萬石、九十五萬石、九十六萬石、九十七萬石、九十八萬石、九十九萬石、一百萬石。

段值均年
四三一
節節節節

十三十三
十二十二
十四十四
十五十六
十六十七

方^{かた}にても敵^{てき}線^{せん}を突^つ破^はせる後^{のち}前^{まえ}進^{しん}し更^{さら}通^と患^{わづ}者^{もの}は男^{おとこ}三^{さん}一^{いち}七^{しち}女^め一^{いち}五^ご



故伊藤公に則はり大森に移して恩賜
於て

明治神宮

た事は是又父へ報遺した如くであ
が六月末日に於て既に三百二十五
餘圓の獻金を釀成し得るに至つた
れど豫定の四百五十萬圓は猶百
十萬圓の不足がある。即ち

●豫定額の中 二百萬圓は
京に於て募集すべき手筈であるに
らず未だ百二十五萬圓にしか達
てゐない。然るに二百五十萬圓を
してゐた地方に於ては既に豫定額
超過せんとするの盛衰を呈し現に
庫藏は七萬圓、御藏は三萬圓、要知
は五萬圓の超過を示してゐるさて
外遊は果して如何なる設計に依つ
て實現されるかと云ふに大體多く
建築物は大廳處に分る事は勿論
が建築物は大廳處の如くに決定し
てゐる。

●記念標 青山觀兵衛北村紫雲
殿は、先帝の御遺骸に對し奉
限りなき悲しみを以て永続の誠を
限り思想し、其地所であら爲に特
記念塔又は記念碑を立てる善であ
る。

●聖蹟記念館 記念塔の附
に建設 先帝の御遺骸を、廟裡に
するまでの御事處を給場に寫して陳
し、汎く一般の拜觀を許して御在位
の聖蹟を偲び奉るの資に供する。

●憲法記念館 憲法御制定
時先帝御臨幸遊ばされし建物にしし
御て赤坂離宮に在りしを思召に依

元相摸の入渠

命能離有するをに隔に壯のレ軍連事蹟

煙火を打揚げ凱進の意を表し市中
非常の賑ひを呈したり（詳細）

馬賊團敗らる

頃日本清河藩の上流に當り、名を以て稱する馬賊小頭目は部下四十名を率いて廣く掠奪を逞まし、す由海鹿の邊界知事に訴へ出しか同地より乘馬巡警の警備隊討伐に赴地に近づきたるに清河藩の上たるも原嶺の管内にて開戦處へ來れる討伐隊と交戦中なりしかば是の様子を窺へるに聞原隊は三十らしくして數の二名を即死せしめ四は重傷他二名の地處を狩逐其々斃絶せしが然るに馬賊酋野蠻者冷水泉子附近に竄入し來りしか更に拘梟の警備隊に急襲し本部の東西兩側の所屬より乘馬巡警を叫び總員六十名にて野蠻者附近の山に於て交戦せしに賊は漸次東豐縣に敗走したり

帝都洪水減ず

東京市下谷區草場及び千住方面洪水は一日に至り漸次減水したる尙全減水せざる爲め各救護隊は

馬賊團敗る

は、它に於て眞・コロムサンカリを原用し、
自親を逃けたるが現據の模様が庫
上に祖先の位牌を置き、鎌倉と立て
の身は皆對の位牌にて、結息した
原因に不明なるも、多分世を悲觀し
此の始末に及びしものならん。何
詳細は次號にて載述すべし

● 八十餘名の馬賊團
由緒綽綽有餘、馬賊を距る邦里、一里
果部落に八十餘名の馬賊、來せり
て、同地方の老幼男女の多數は去る

帝都洪水減ず

もの
引張る
居に
所に急報したれば、憲兵出張、張賊討
の結果、同官は、被斃、數月を経過し
れるものゝ如く、男女の別を、伺明
ざる程なるが遺留品、其に依り、梅
の結果、死者は、平南、順川郡、院上、
村、里生の郷貫、南、趙、趙、趙、趙、
と判明せし、同人は生前、地方を行
め、平南及び平海の各郡、地方を行
し、去る二月頃より、行衛不明と

自動車隊引返

し廻り去る二月頃より行衛不明と
りあるものにして幾分の所持金
たりと云へば他殺の疑ひあり目
犯人探中

●仁川會第二例會 去取
京城は轉任せるもの近時漸く増加
たるより仁川會を組織すべしとの
議ありしが去る三月中第一會を喜
家ら於て開會し其際第二會は仁川

妻女の劇薬自殺

家に於て開會し其隣國二つは行方
に於て開便すべしと協談成り宮本氏
指名に於て幹事を舉ぐ、京城旅行の
支配人朝日新聞の橋二氏其任に當
る

は又來る人毎に「君しや々々」と號
するが當の相手は却て來ない。
「オイ」「差違さん、昨朝お前
引受けた其名前だけは分つたかい
」「イヌ其れが棲家大けは知れまし

翡翠の簪

きく登壇。　　「どうです新聞を御覧でしたか」
 藪から林、兩新聞は合點の行かね
 持に顔見合すを居士は懷中から其
 の京城日報の朝報を取出して見せ
 と初めて合點行の體。其處
 宮眞機を肩にした城覆護法、院長
 堀、いや宮眞機様とはいふ處へ氣
 付かれましたな」と言へど更に
 院長には通じない模様。是れも新

「今朝は皆様の御出が烏頭と共に茶屋三笠の老

院長には通じない模様。是れも新聞を見て初めて合點。庭前、私が寫つてあげませう。と機械を斜に構へてあやまらぬ。此處へ歸つて來ぬ。庭前、私が寫つてあげませう。と機械を斜に構へてあやまらぬ。此處へ歸つて來ぬ。庭前、私が寫つてあげませう。と機械を斜に構へてあやまらぬ。此處へ歸つて來ぬ。

乗込ましたこと

●數箇所を荒す 奈良縣 郡下町間生れの様目、一(一)は、
の住所もなく京域市中を徘徊し之の
十八日、井町二丁目池田某方の西
の金屋一個を盗取し中村某處へ受
けし黃帝町三丁目の渡邊初めに
十八日、食取したるを手切のに
廿七日迄に獄上内暗に千金銀數枚
持出、之を濫獲して賣却し買食
したる所を木町署に引致され

を手にて幾千五百圓を返々に渡す

行旅の便に當り、馬場船を水車
船に代へて、同午前十時の渡
船が、馬場船へ運び居
る中、中流の船に認められ
て、金山、渡船へ同送られ
て、下宿船に歸る。鮫早縣、
小島村、井の井二、が京城、
下宿屋を充て、捕は京城城
下、三箇月の判決を受は
る。覆審法院に控訴したるも棄却さる。

「性」は性、極めて粗、暴に

[illegible]

し主^し月^{げつ}二十^{にじゅう}六^{ろく}日^{にち}候^{こう}十^{じゅう}四^し日^{にち}自^{より}生^{なま}ず
 座^ざにて仕^し事^{こと}申^{まう}なりし車^{くるま}の後^{のち}乃^{すなは}よ

[illegible]

さう言つてお遣りの『へエ、宜
座います』『ぢやあ歸るとし

[illegible]

益田英作、山岡才次郎、八任期滿、
朝吹常吉、日比翁助、藤村

西軒 器七
了了タリ
月記所
種口
リーバ
院

新刊書傳
●朝鮮之花 島津海軍 著 宇野浩二 譯
●城下旅行案内 國澤山田 著
●改訂新撰日本外史 海峽均著
●ロマン忠義の哲學 李龍淵 著
●石 藤村正 著
●紅蓮 赤穂義士 文庫
●投入花の宴會 特一 著
●夢見世界の人物地圖と文學士
●藝文 梓鏡子 著

一、諸貸出金	二、四六、〇二	金額
資		
產		
負債		
資本金		
準備金		
負債		
合計		

[illegible]

金貳拾壹萬參千五百四圓七拾壹厘
當期純益金及前期繰
此配當計算左ノ如シ

洋服毛織物保存
洋服及び毛織物御保
なるるには（ドレー
ククリニンゲ）なさ
が御安心です。
ドライクリニンゲ
は一滴の水を用ひず
織仕立物は勿論綿入

五年
取取
業部
長役
森右
脇近
本清
和

織仕立物は勿論婦人
の物にても仕立の儀
何なる汚れも美麗に
するのであります
一、仕立たる儘少しも形の
地味を掛へた髪色俾纏
二、殺菌消毒には是れより
三、羽根の良法な毛布敷物類も
動物の毛皮如何なる火
動車の中に出ない事
物にても中袋、バナナ
外袋、手袋、バナナ、

店

京坂本町二丁目(府廳前)
菱川洋服
 クリーニング
 電話 三三五

[illegible]

れば、こつちに何の損害もない。

[illegible]

恩給年金 立即領取遺孀一切
大正銀拾元 卹金 博多屋本庄
理髮館讓 龍山上有舊地家貨二箇五十年經營上落價廉外有富地下五十坪歸國に存念急欲 嫁者任便
見習看護婦入用 但求年二十餘以下之婦人入用可也
一京橋町 島崎病院
男女之間 此等有給外來出入用者皆無本人承認而黃金附 朝日新聞內 福岡日日支局
天然氷 貳萬貫
在原の横濱製冰所
志岐組 電話三九九
鑛物分拆 京城鐵路二九九
鑛山測量 金石商會一九九
大天丸東洋技師に依り正確測量す
恩給年金 卹金 博多屋本庄
京城武藏野鐵道連速鐵通
京城日清鐵道三三三
北丸丁
國江商會 570
恩給即時立替
▲月利壹分 定五分厘
京成連發門前 江州屋
南品川 大和町 丁目出番下
小兒科 爲春堂醫院
內科

理料御席
 忠州錦町
 末廣館

六十疊敷宴會場の設備あり

酒清良醇双無



無害衛生

品質無双

造吟社會名合藤首

ハービンリキ 寶小御米白精
 萬甲龜き油醬 ハービロボツサ
 種各一ダイサ引布欠三 種各零

元賣發鮮朝

店支城京藤首

(券一十一一覽覽町全當)

京城永樂町二丁目諸品陳列館裏門通
 酒井婦人病院
 入院隨意
 電話二六〇〇番

惣切町味元運送賣、に市内配達及び
 地方通信販賣致居候
 文京町三丁目榮光局前
 山岸天祐堂 藥品部
 器械部

○西洲津 西洲津各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○天津 天津各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○大連 大連各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○青島 青島各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○烟台 烟台各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○威海 威海各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○大連 大連各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○青島 青島各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○烟台 烟台各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○威海 威海各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○天津 天津各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○西洲津 西洲津各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○大連 大連各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○青島 青島各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○烟台 烟台各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○威海 威海各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○天津 天津各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○西洲津 西洲津各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○大連 大連各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○青島 青島各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○烟台 烟台各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○威海 威海各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○天津 天津各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

○西洲津 西洲津各港を経て雄果行

八月廿九日 午後九時出

寫眞
寫眞銅版、亞細出版
諸君可也。此書是以所繪之像、隨處可以購得。
眞
京城日報社 寫眞部代

新荷著クシ懷中時計

尼崎汽船出帆
群山、木浦、釜山、下關、神戶、大坂行
○君か代九 月 日 夜四時出帆

日本正午船出帆
○大連、太田生班行
相模、八九月十六日 正午出帆
三河砂丸 八月十六日 正午出帆
高砂丸 九月十六日 正午出帆
小笠原丸 十月十六日 正午出帆
櫻岡、瀧澤

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

○天眞丸 每月一用九日十四日 午後十時出帆
日廿一日廿六日
大池回瀾部
○錦江丸 每日午前
南陽丸
本館取紙店
大池回瀾部
仁月發

○天眞丸 每月一用九日十四日 午後十時出帆
日廿一日廿六日
大池回瀾部
○錦江丸 每日午前
南陽丸
本館取紙店
大池回瀾部
仁月發